

絞扼性腸閉塞の治療のため手術を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター 外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	絞扼性腸閉塞における腸管壊死予測因子の検討
【研究実施期間】	2024年10月8日～2026年3月31日
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 外科 研究責任者 由茅 隆文
【対象となる方】	西暦2020年1月1日から2023年12月31日に、外科にて絞扼性腸閉塞と診断され緊急手術を受けた方、55名
【研究の意義、目的、方法】	腹痛で緊急手術を要する病気の中で、絞扼性腸閉塞は一般的な病気の一つです。腸管壊死をきたすと腸切除を要し、入院期間の長期化や合併症が増えることが報告されています。どのような患者さんが腸管壊死をしているか予測することができれば、手術の方法や術前説明などについてより良いものに行うことができるかもしれません。 当院における絞扼性腸閉塞の臨床データを検討し、腸管壊死を予測する因子を同定します。
【利用する試料・情報の種類】	絞扼性腸閉塞の診療に関する臨床データ（年齢、性別、血液検査、画像検査、病理検査、術後の転帰）
【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 外科 由茅 隆文 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）

